

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
数と式 (71.9%)	<p>・平均正答率は、昨年度より上昇した。特に数や式の計算や、方程式の計算で昨年度よりよい傾向である。しかし、昨年同様、文字の式で文字が何かの代わりであることや文字を使うことの良さなどのついての定着が完全とはいえない状況である。</p>	<p>・文字を使ってあらわすことの有用性を感じられるような導入の工夫や、具体的な場面での問題を取り入れることで、文字式に対する抵抗感をなくし、有用性を感じさせられるような展開を工夫する。また、1次方程式では簡単な計算問題の繰り返しを取り入れ、確実な計算力につなげる。</p>
図形 (74.7%)	<p>・平均正答率は昨年度より上昇したが、図形の表し方について、記号の使い方などの知識・理解が昨年同様不十分であるといえ、注意深く問題に取り組む必要があると思われる。</p>	<p>・どの場面で、どの表現を使うことが適しているのかを明確にし、図形の表し方の場面において、記号や表現を繰り返し確認する。また、問題をよく読んで取り組むように日ごろからの習慣づけを図る。</p>
数量関係 (64.4%)	<p>・平均正答率は昨年度より上昇した。昨年度の反省を生かし、ともなって変わる2つの量に注意深く着目させ、その変わり方を明確にし、数量の関係を式として表現することに繰り返し取り組んだことが良い結果へとつながった。しかし、比例反比例の利用が不十分であることは昨年度からの傾向と変わらない。</p>	<p>・今年度同様、ともなって変わる2つの量について、その関係を明確にし、式として表現することを継続して行い、具体的な問題を解決することにつなげていく。そして、利用の場面では基本事項と同様に考えられることが実感できるような展開を工夫する。</p>
領域名 (平均正答率)		